

第205回（令和4年2月20日施行）

1 級商業簿記・会計学

第1問

本問は、『企業会計原則』の「第一 一般原則」、さらに同注解1及び5からの出題である。具体的には、正規の簿記の原則、重要性の原則、経過勘定項目についての理解を問うている。

第2問

1. 増資

払込期日となったので、別段預金を当座預金とし、新株式申込証拠金を資本金へ振り替える。なお、払込金額の2分の1までを資本準備金とできる点は、設立時と同じである。

2. ソフトウェア

パッケージ化されたソフトウェアを購入した場合、付随費用とともに無形固定資産として計上する。

3. 圧縮記帳

国庫補助金を受け入れて有形固定資産を購入した場合、圧縮記帳を行うことができる。直接減額方式を採用している場合には、固定資産圧縮損勘定を用いて有形固定資産の取得原価を減額させる。そのうえで、圧縮後の取得原価にもとづいて減価償却を行う。

4. 支店間取引

支店分散計算制度を採用している場合には、それぞれの支店が各支店勘定を設けて仕訳を行う。

5. 外貨建取引

外貨建取引では、取引時の外貨建金額をその時点の為替相場を用いて換算する。

第3問

本問は、元帳の締め切りに際して、大陸式決算法を採用した場合の決算振替仕訳を問うている。大陸式決算法では、資産・負債・純資産の各勘定残高を閉鎖残高勘定へ振り替えることで、すべての勘定の貸借合計が一致し、勘定を締め切ることができる。

第4問

吸収合併では、合併当事会社の1社が存続し、他の会社（被合併会社）は消滅する。被合併会社の株主に対しては、存続会社の株式を交付する。このとき、被合併会社から受け入れた資産及び引き受けた負債の時価を基礎とするため、生じた差額は「のれん」又は「負ののれん」として処理する。

第5問

本問は、主として決算整理の処理及び財務諸表の作成能力を問うている。【問1】では貸借対照表の作成を、【問2】では損益計算書の作成を問うている。処理しなければならない分量が多いと感じるかもしれないが、出題した論点そのものは基本的な水準である。